

祖師(親鸞聖人)は、生涯かけてのご苦勞を、ご自身の苦勞とは考えられていない。如来のご苦勞をいただいておられるのである。すなわち、如来のご苦勞によって、自分は何の苦勞もなく法蔵菩薩の永劫修行のご苦勞の結果のすべてのものを、この身一身にいただいたとよろこばれている。(曾我量深師)

報恩講の季節になると思い出されてくるのが上のお言葉です。

父母のご恩を忘れて殺そうとしたアジャセに「無慙愧(罪を恥じぬ)は人として名づけ難し」と釈尊は説き、蓮如上人の御文には「ご恩を知らざる者はまことに木石にこそならんものか」と言われています。ここに人の身を受けて生きている喜び・悲しみがあるのでないでしょうか。 皆杯のお考りをお待ち

「御石を南く会」11月28日午後1時半<sup>ちし</sup>～<sup>い</sup>住職がご法話いたします。